

定年後の生活を意識したとき、趣味の問題は必ず考えておかなければならないテーマのひとつです。趣味がみつからないセカンドライフは、ありあまる時間をもてあます状態になってしまいます。

できれば定年後に初めて趣味を探しておろすより、定年前から少し手をつけておいたほうがいいでしょう。50歳代なら定年まで今のうちに、60歳代であればできるだけ早いうちに、セカンドライフを楽しむことのできる趣味をみつけてみてください。

セカンドライフをにらんでの趣味で意識すべきは「終わりがあるか、ない



定年後の趣味を考えると、50歳代の資金作りが課題となる

か」です。終わりがある趣味とは例えば「お遍路さんをする」「東海道を日本橋から京都まで歩く」「定年になったら客船クルーズに参加する」などです。

こうした趣味は定年後のあこがれとしてはいいのですが、終わりがきた後はどうするか、という問題にぶつかります。何周もお遍路さんをするわけにもいきませんし、毎年客船に乗る予算はないでしょう。

続けられるかどうかは、お金がかかる趣味かどうか、にもつながってきます。定年前後に意識してみるといいと思います。

「趣味にも予算の意識を持つべきだ」といえば、多くの方は納得するでしょ

う。いくら好きなものであっても、無制限に予算をつぎ込むことは50～60歳代にもなって行うべきではありません。お金がかかる趣味を実現したければ、セカンドライフの趣味予算を確保して定年の日を迎えないければならない、ということです。

50歳代の人には課題があります。それは老後の趣味のため資金準備に励むということです。100万円の貯蓄でも十分です。50歳代にがんばってためればためた分だけ、何か趣味を始める余裕資金として活用できます。資金を作れなかった場合のセカンドライフより何倍も楽しい人生を送れるはずですよ。

お金をつぎ込むだけが趣味ではありません。趣味を極めつつも、あまり費用はかけない方法を考えながら長くつきあえることが理想です。

私はよく「定年後にまちの歴史を調べる郷土史家になる」という例え話をします。図書館に通って古い資料を読み込むのに、お金はほとんどかかりませんし、時間はたっぷり費やせます。10～15年も調べたら書籍を一冊著して、新聞の地域面に紹介してもらえるかもしれません。

地元の観光ガイドになるという手もあります。これなら定年後ゼロからのスタートでも一生の趣味になります。趣味がセカンドライフに彩りを与えているとしたら、まさにバラ色老後といえるでしょう。

「趣味はやはり夫婦一緒に楽しむべきでしょうか」と聞かれることがあります。私の答えはこうです。「夫婦一緒に楽しむ趣味と、別々に楽しむ趣味を両方持った方がいい」と。夫の趣味に妻が興味がなかった場合、夫の楽しみが消えてしまいますから。

(消費生活アドバイザー 山崎俊輔)

▼マネー→年金・保険・税→20代から始める バラ色老後のデザイン術

趣味とお金の関係

定年後も楽しむなら貯蓄を